

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：岐阜県内における河川魚道の機能回復事業～水みちの連続性を目指して！～		
水系/河川名：		河川分類：0
河川の流域面積： km2	整備計画流量： m3/s(W=1/)	セグメント：0
事業：維持管理	事業開始年度 平成24年度	
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：水環境改善、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

岐阜県では、平成4年3月に旧建設省の「魚がのぼりやすい川づくり事業」のモデル河川に長良川が指定を受けたことを契機に、全県的に整備を進めてきました。

しかし、出水等により県下の魚道の多くは機能不全に陥っていました。

<目標>

県下の機能不全に陥った魚道の機能を回復する。

取り組み内容・対策例

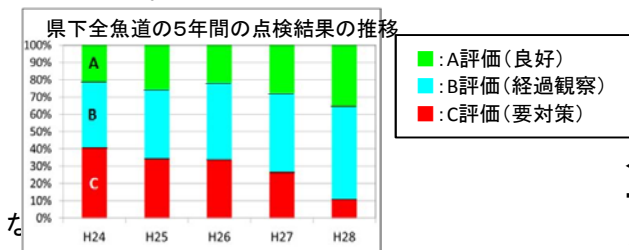


- ・県下の全魚道の状態を把握するため、産学民官協同で「魚」と呼ばれる、チェックシートを作成した。
- ・「フィッシュウェイサポーター制度」と呼ばれる、県民ボランティアを得て魚道点検を実施する制度を構築し、毎年県下の
- を把握した。
- ・点検結果をもとに、要対策魚道を決定し、優先順位をつけ修繕を実施した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備効果>

・5年間の取り組みより、初年度点検時は機能不全と診断された魚全体の4割を占めていたが、5年間の取り組みにより1割に減少させることができた。



<今後の対応>

- ・効率的な魚道の維持管理に繋げていくため、予防保全的
- や、県民ボランティアの活用方法を検討していく。

備考

岐阜県内における河川魚道の機能回復事業 ～水みちの連続性を目指して！～

Keywords : 清流, 水みち, 住民協働

●取組事例 1



改築によって機能回復を果たした魚道（竹原川 下呂市）

●取組事例 2



県民ボランティアによる魚道点検

県内の一級河川の県管理区間にはたくさんの魚道が設置されている。岐阜県は5カ年計画で、機能不全に陥った魚道の機能回復を実施してきた。県民協働の「点検体制の確立」と、「改築、修繕」の観点から岐阜県の取り組みを紹介する。